ちんじゅの森通信 ～秋～ 2026

季節のめぐりのなかで

森村 衣美

日暮れが早くなり、秋の深まりを感じます。令和８年度前半の活動を振り返ってみたいと思います。

春は田んぼの準備から田植えへ。夏の草取りが少し功を奏したのか、秋の稲刈りでは、昨年ほどノビエに悩まされずに収穫できました。はたけ班のみんなが作ってくれた大きなトトロ風のかかしが田んぼを見守ってくれた効果かもしれません。その後、雨の多い９月となり、稲を十分に乾かすことが難しい年でもありました。

はたけ班では、二十日大根や人参、藍の種まき、じゃがいもの収穫やいも餅づくりなどを行いました。ヘビの抜け殻を観察したり、カナヘビ探しに夢中になったことも。ほぐほぐの敷地が、生き物たちのすみかになればいいなと思います。また、飼育上手なメンバーからメダカをお裾分けしていただきました。水草とともに鉢で暮らすメダカの様子が、なんとも愛おしいです。

園芸班では、循環する堆肥を使い、季節の花を咲かせています。秋明菊（シュウメイギク）は、風に揺れる淡い花色が少しはかなげで、眺めていると心が和みます。梅干しづくりや、学生さんたちが趣向を凝らしたお月見団子づくり、藍の生葉染め体験など、季節の行事も行いました。夏休み伝統文化親子教室のお神楽も恒例行事となりました。毎年同じ行事を重ねながら、今年もまたこの季節を迎えたのだと感じています。

春に３回目となるご遷宮フォーラムを東京大神宮にて開催し、作家・国文学者の林望氏にご登壇いただきました。伊勢という聖なる地だからこそ、そのタブーに挑む恋愛が描かれてきたという、日本文学における伊勢の一面を知る興味深いお話もありました。

今夏はこのご遷宮フォーラムの特別企画として「川曳ツアー」を行い、講師の濱千代早由美先生のご縁で、第１回のフォーラム参加者とともに「二見浦茶屋清渚連」に参加させていただきました。
川曳は、式年遷宮に向け、内宮領の御用材を五十鈴川から神宮の宮域へ曳き入れる行事です。木の橇（そり）に御神木を積み、そこから伸びる長い白い綱を手に、川をさかのぼっていきます。かつては御用材を運ぶための労働でしたが、今では地域の民俗行事となっています。

その川曳は、想像していた以上に楽しいものでした。地元の方たちの威勢のよい木遣り歌、「エンヤー」の掛け声とともに、ぐっと力を入れて綱を曳いていきます。晴れ渡った青い空、ひんやりとするけれど冷たすぎない川の水、文字通りキラキラと輝く水面、跳ねる白い水しぶき。周りの人たちと笑い合いながら、五十鈴川を進んでいきました。お木曳行事は令和９年も続きます。

20年に一度、1300年以上にわたり行われてきた伊勢神宮の「式年遷宮」には、自然の循環と文化の継承が同時に体現されています。引き続き、令和15年のご遷宮に向け、学びを深めてまいります。

歴史ある行事に参加すると、私たちもまた、大きな時間の繰り返しのなかに生きているのだと感じます。現代は、人間として生きることそのものが問われているような時代です。身体のある時間を、周りの人と力を合わせ、楽しむ。そうした人の営みが、これから先の時代にも受け継がれていくことを願いつつ、日々の活動を一つひとつ重ねていきたいと思います。

活動に参加してくださる方、さまざまな形で支えてくださる方々に、心より感謝申し上げます。これからも、何卒よろしくお願いいたします。



令和8年度 前半 活動報告

お米の一年　代かき

4月

今年は、雑草取りと、田んぼの周囲に土手を築くことを使命に、代かき作業を進めました。
ムツゴロウ系のお子さんが多く、まさに言葉通り、土と一体となって、田んぼの土をかき回してくれました。お姉さん組が着実に土手を築いてくれました。泥ドロ時間はおおよそ30分で満足が得られるようです。その後は大人が鍬を使用して表面を平らにならし、水深をそろえました。
シャクヤクやクレマチス、アヤメの花も鮮やかで、元気な子どもたちの声に大地の神様も喜んでくれたことでしょう。




お米の一年　お田植え

5月

ご神事では豊作と作人の安全、荒々しい風雨に悩まされることなく、時に穏やかな風をうけて、虫の災いを避け、よいお米が実るよう祈り、お田植え作業へ。小さいお子さんもよくがんばりました。大人の方が田んぼの土に足を取られて苦労していました。土団子の稲作コーナーは庭の野の花と稲の苗のコラボを楽しむスペースになりました。
白いお米のおむすび、差し入れのお漬物やお菓子をいただき、この日は茨城県の神主さんが作成したアニメーションを観賞して、日本の神様のことを知る機会となりました。




じゃがいもの会

6月

共催 日本女子大学食育ボランティアグループ
（公衆栄養学研究室）

種イモを植え付けてから約100日。じゃがいもの収穫といももち作りを行いました。
15個の種イモから2.5キロ強の収穫となりました。
たったいま畑から掘り出した新鮮なじゃがいも茹で、マッシュして片栗粉を混ぜて成形して、焼きます。味付けは試作を重ねた大学生チョイス3種のみたらし、味噌味、チーズ味。幼稚園～小学校高学年、大学生はフレッシュ1年生から企画の４年生や卒業生、若いパパママ＆中高年、みんなで賑やかなひと時となりました。




梅仕事

6月

共催　日本女子大学食育ボランティアグループ（公衆栄養学研究室）

子どもたちの体験や交流の場として鳥取の八頭町、志子部集落の方が手入れされている梅林の梅を今年も届けてもらいました。赤紫蘇は、栃木との２拠点生活で農を営む会員さんより。梅干し作りを気軽に日常生活に取り入れよう！というコンセプトで、現代の便利グッズのジプロックで漬け、重しは水を入れたペットボトルで行いました。
梅の実を触ったのははじめて！という学生さんもいて嬉しそうでした。夏の盛りに、栄養たっぷりふっくらおいしい梅干しとなりました。





伝統文化親子教室「はじめてのお神楽教室」協力　相模里神楽垣澤社中

8,9月

文化庁の助成金を得て3日間にわたり開催した「はじめてのお神楽教室」。今年は、幼児チームと小学生チームに分かれて練習しました。発表会では、小さい子たちは可愛らしく一緒懸命に習ったことを披露してくれて、大きい子たちは、とても美しい舞に仕上げてくれました。子どもたちはものすごい吸収力で、獅子舞の難しい動きも、教わって身に付けてしまいます。
装束を着て、作法を教えていただき、とてもよい経験になったことと思います。





8月

ゆるく集まる会 原木椎茸

ゲスト　磯部盛さん　（新潟県村上市神林地区）

2月の駒打ち後、建物の北側に並べて水やりし、寒冷紗をかけて見守ってきたほぐほぐのナラの原木椎茸の菌の育ちは、良好でした。この秋に収穫の可能性も！

昔は、稲刈りが終わると、農家の冬の仕事としてナラの木を切り、木炭を作って村上の町へ売りに行ったが、暮らしが電気や石油を中心としたものに変わり、ナラの木が使われなくなったため、磯部さんが始めたのがナラの木を使った原木椎茸栽培です。

お話のあとは、肉厚で味の濃い原木椎茸と、一粒を大きく育てた里山のお米の「原木椎茸炊き込みご飯」をいただきました。「里山のお米と椎茸で農業を続けていきたい。」という言葉が印象的でした。







9月

お米の一年　抜穂祭と稲刈り

今夏はここ数年では比較的穏やかな気温で、例年より少しおそめの時期の稲刈りとなりました。

毎年お米がおいしくなる時期に集まってきていたスズメが来なかったのが気になります。

ご神事では、3人のかわいい小学生が「稲穂の舞」を舞ってくれました。玉串をお供えする際のバックミュージックの龍笛と笙の音色も空間によく響きました。

無事に今年のお米を刈り取ったあとは、学生さんたちがにぎってくれた、白くてきれいなまるい塩むすびのほか、お供えしたスイカや夏野菜の塩揉み、御神酒や6月に仕込んだ梅シロップジュースなどを、みんなで楽しみました。







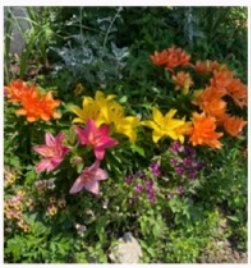
通年

園芸班活動～花とともに季節をめぐる～

園芸班では月に1回、「ほぐほぐ」のお庭に集まり、季節の移ろいを感じながら、花壇の手入れや植物の成長を楽しんでいます。4月から5月には、冬に植え替えたクレマチスが次々と開花。淡い紫や深い紫、赤紫など、色とりどりの花がお庭を華やかに彩りました。手作り堆肥で育てたユリは、驚くほど大きな花を咲かせました。切り花にして室内に飾り、華やかな香りを楽しみながら、みんなで開花の喜びを分かち合いました。

作業の合間には貝割れ大根の種まきをしました。持ち帰り、それぞれの場所で発芽から成長していく様子を楽しみました。

これからも楽しみながら、ほぐほぐの庭を季節の花でいっぱいにしていきます。









8月

ゆるく集まる会
～田んぼから学ぶいのちの循環

ゲスト：網本朝香さん

無農薬・無化学肥料で無除草(雑草を生やさない工夫)の稲作を全国の自治体等でサポートやアドバイザーを務める網本あさかさんをお迎えし、田んぼから学ぶ様々な命の循環についてお話いただきました。

田んぼは、お米を育てるだけでなく、水を蓄え、生きもののすみかとなり、自然の循環を支える大切な環境でもあります。土の中の微生物や昆虫、鳥などさまざまないのちが関わり合い、その循環の中で、稲が育ち、稲が人の食を支え、また次のいのちへとつながっていく。

そのような多くの命の循環の中に、私たちの暮らしが自然と深くつながっていることを学ぶ機会となりました。





9月

マンゴーのお月見団子の会

共催　日本女子大学公衆栄養学教室

今年はマンゴーのお月見団子。若さ溢れるトロピカルなアイディアが面白く、ほんのり黄金色のお月様のようになりました。

日本におけるマンゴーの生産地や、国の推奨する一日に摂るとよい果物の量についてのクイズに小学生が名回答。

お月見は、月を眺めるだけでなく、収穫を喜び、自然の恵みに感謝する行事でもありました。

小さな田んぼで稲を育て、畑でカボチャを収穫し、お月見団子には冷凍マンゴーも一興。子どもも団子も学生さんも、黄金色でした。







通年

はたけ班活動

はたけ班ではNPOの活動として、畑の3畝を使わせていただき、月に1回活動しています。

様々な年代の方に参加していただき、土に触れながら、季節ごとの野菜を育て、収穫したものをお供えして、みんなで分けたり、育てたヘチマからたわしを作ったり、自然を身近に感じながら、みんなで楽しめる活動を行っています。

畑での作業を通して、自然に触れるだけでなく、世代を越えて人と人がつながり、一緒に手を動かしながら楽しい時間を過ごせる場となっています。







日本のさまざまな場所にいる仲間たちを訪ね、空気を感じ、話を聞き、五感で感じることを大切にしています。
今回は学生メンバー2名が、それぞれ三重県伊勢市、新潟県村上市を訪ねたときのレポートをお届けします。



伊勢の川曳

三重県伊勢市
2026年7月24日-26日
報告者：小山栞奈

川曳って？

「川曳(かわびき)」とは、遷宮に用いられる御用材を五十鈴川を通って内宮へと運び、奉納する行事です。川曳きのほかに、陸路で外宮まで御用材を運ぶ「陸曳(おかびき)」があり、この2つを合わせてお木曳と呼んでいます。20年をかけて行われる遷宮のなかでも特に伊勢のまちが盛り上がる行事のひとつです。伊勢の神領民（しんりょうみん）が力を合わせて御用材を運びます。御用材を引く際には指揮者が「木遣（きやり）」と呼ばれる労働歌で音頭を取り、それに合わせてみんなで声を出しながら運びます。



誰でも参加できるの？

お木曳きは神領民によって行われてきました。神領民とは、伊勢の住民で、神事や伝統行事を支えてきた地元の住民のことです。もともとお木曳きは労働として行われていましたが、江戸時代になり伊勢参りが流行すると、段々と祭礼としての意味合いが色濃くなっていったといいます。最近は伊勢市外から参加をする人を「特別神領民」として迎え入れ、一緒に川曳に参加できることがあります。参加者が地区などの単位で「奉曳団（ほうえいだん）」を結成し、力を合わせて御用材を運びます。



身を清め、遷宮を知る



ちんじゅの森で開催しているご遷宮フォーラムの講師である濱千代早由美先生から参加の機会をいただき、ちんじゅの森のスタッフやご遷宮フォーラムの参加者の方の有志で「茶屋清渚連（ちゃやせいちょれん）」の奉曳団に参加しました。1日目は、茶屋清渚連の拠点である二見町にある二見興玉神社にて浜参宮に参列し、身を清め、無事に御用材を神宮に奉納できるようお祈りをしました。
夜は、濱千代先生から、川曳の歴史や参加するときの心構えをお話いただきました。二見にある塩田は「御塩浜（みしおはま）」と呼ばれ神宮の神事に用いられることや、神宮に奉納するための野菜を育てる「神宮御園」があるというお話を聞き、長年受け継がれてきた伊勢のご神事は伊勢の人びとの手で支えられてきたのだと感じました。

川曳を通して、伊勢の文化に触れる

宿泊でお世話になった岩戸館を出て、奉曳団の集合場所に向かうと、同じ法被を来た人が次々と加わっていき、その数に圧倒されました。私たちが参加した茶屋清渚連は、約600人もの方が参加したそうです。連ごとにたくさんののぼりが立ち並び、法被を着た人が多く行き交う中をはぐれないように進みます。
いよいよ川曳が始まると、おそるおそる五十鈴川に入っていきます。腰までしっかり浸かるほとの深さに最初は少しどきどきしましたが、少しずつ慣れてくると、暑さの中で川の冷たさが心地よく感じました。前後の連との距離を保ちながら、木遣の合図に合わせてゆっくりと進みます。600人に聞こえるように高らかに響く声は圧巻でした。ときどき「練り」といって、綱を勢いよく揺らし、水しぶきをたてる動作があります。想像以上の勢いに最初は少し躊躇しましたが、慣れてくると、全員で息を合わせる感覚が心地よくも感じました。
今でこそ行事としての意味合いも強くなっているも川曳ですが、もともとは伊勢の神領民に任された大変な労働だったともいいます。木遣や練りは、無事に御用材を運べるよう、力を合わせ、気分を高めるために生まれてきた伊勢の文化なのかもしれません。
無事奉納された御用材に番号が記されているのを見て、これが次のご遷宮で神宮の一部になるのだと思うと、その一端に携われたことを少し誇らしく感じました。











赤かぶのおいしさをたどって

新潟県村上市山北
2026年8月8日-9日
報告者：志村怜音

「おいしい」の、その先へ

きっかけは、大学１年生の秋にほぐほぐで体験した赤かぶ漬けでした。そのおいしさに感動し、山焼きをした斜面で育つと知って、「どんなふうに作られるのだろう」と現場を見たくなりました。

５月には、ほぐほぐの皆さんと高根へ。原木しいたけのお話を伺い、山菜採りや製塩の現場の見学を通じて、地域の食と暮らしに触れました。その際、山北地域に暮らす板垣さんから８月のお盆前に山焼きをすると伺い、ぜひ参加したいと連絡を取りました。



炎のそばで感じたこと

８月、高根の鈴木信之さんと訪ねたのは、杉を伐採した約１ヘクタールの斜面。現場の方は、数か月前から枝などを整える準備こそ大切だと話していました。夕方５時過ぎ、約40人が集まり、周囲に水をまいてから火入れが始まりました。立ち上る煙が風に運ばれ、斜面を上っていく光景は壮大でした。

ところが、午前中の雨で枝が湿り、火は思うように広がりません。夜８時を過ぎ、僕も板垣さんに教わりながら、燃えている枝から次の枝の山へと火を移しました。炎の広がりや空気の通り道を考えても、なかなかうまくいかない。何度も試し、ようやく燃え上がった炎の美しさに、思わず見とれました。間近に感じる熱と迫力には、怖さもありました。それでも炎を眺めていると、不思議と心が落ち着く感覚もありました。

夜９時、僕が帰るころに焼けたのは斜面の半分ほど。その後も地域の方々は夜通し作業を続けたそうです。あの赤かぶのおいしさの向こうには、これほどの手間と、火や風を読む知恵がある。そのことを体で感じた一日でした。食べるだけでは見えなかった人の仕事に出会えたことが、何よりうれしかったです。これからも足を運び、この土地の暮らしをもっと学んでいきたいと思います。



高根ってどんなところ？

新潟県村上市の高根は、四方を山に囲まれ、高根川が流れる集落です。重厚な木造の家々が並び、夕日が山を照らすと、不思議と心までぽかぽかしてきます。滞在中に感じたのは、人の温かさから生まれる集落の活気。今回も高根の古民家ゲストハウス「瑞泉閣」に泊まり、同じ村上市内の山北地域へ、赤かぶの山焼きを訪ねました。



赤かぶを育てる「山焼き」

山北地域では、杉を伐採した斜面の枝葉を焼き、その灰を養分に赤かぶを育てる「焼畑」が受け継がれています。火を入れることで雑草や病害虫を抑える効果もあり、焼畑は次の植林とも結びついてきました。伐採後の土地を畑として使い、再び森へとつなぐ。林業と農業が支え合う仕組みでもあります。森の恵みを食へとつなぐ、地域の知恵が詰まった営みです。



スタッフ紹介

2026年総会から、以下の8名が理事としてNPOちんじゅの森の運営に関わっています。今回はそのメンバーをご紹介します！

\スタッフにインタビュー！/

❶NPOちんじゅの森に関わったきっかけは？
❷ちんじゅの森の活動で一番印象に残っていることは？
❸特に担っている役割は？
❹これからちんじゅの森でやってみたいことは？
❺みなさんに一言！



・森村衣美・

❶NPOちんじゅの森を創設した前代表中尾伊早子さんの、神社を舞台としたさまざまな活動(コンサート、民話・神話語り、ご遷宮フォーラムなど)に出会い、神社の関係者こそ取り組むべき内容だと思ったこと。❷ちんじゅの森サロンほぐほぐを開設し、代表を引き継ぎ、たくさんの人に出会ったこと。❸活動全体の調整❹神社めぐり企画❺八百万の神様のように、みんながそれぞれの持ち味を活かしながら、よい活動を重ねていけたらいいなと思っています。



・松田重雄・

❶2001年の9.11をきっかけに世界の宗教に興味を持つ。国際NGOのボランティアを経て日本の独特な文化風習に惹かれていたころ、2010年ちんじゅの森主催のジブリアニメを題材に日本文化や宗教学を解説する正木晃先生の講座に参加させてもらったことがきっかけ。❷日枝神社で行われる月の宴、風がそよぎ、雷が轟いた瞬間❸映像の記録、直会（宴会）参加❹❺みなさんのご協力で成り立っている活動です。今後ともご参加いただけるとうれしいです。



・寺村佳子・

❶民話語りの舞台❷関わらせていただいているもの全て。どれも比べられないのですが…その中でも古夜のおおたか静流さんの歌声は異次元の世界に誘われ大変印象的❸はたけ班活動・草木染め❹映画観賞会・ちんじゅの森で収穫した大豆での味噌作り等醗酵食作り・コンポスト活動・満月Barや農に関わる方のお話会等❺昔から伝わる知恵や先人の思いに触れながら、自然の循環や人とのゆるやかなつながりを感じられる活動を行っていきたいと思います。



・岡崎萌生・

❶渋沢さんの講演会で、大人も子どももそれぞれの役割を担いながら田んぼ仕事をする一枚の写真に感銘を受け、前代表の中尾さんと繋がった後、地域おこし協力隊として鳥取県八頭町で活動する奮闘記を"通信"に掲載させていただくことに。❷辻川さんの「和の心講座」を集落の皆さんとオンラインで聞いたこと❸地方の暮らしと都市部をつなぐ❹色々な地域の方との交流により、足元にある大切なものを一緒に見つめたい。❺八頭町へ遊びに来てください♡



・小山栞奈・

❶真夏のほぐほぐの畑で草刈りをしたこと。日頃口にしている食材や食べ物のありがたさを実感し、地に足をつけて生活してきた日本人の暮らしをもっと知りたいと思いました。❷元理事の渋沢寿一先生の講義の文字起こしをお手伝いしたこと。日本人の自然観と環境問題の結びつきについて考えさせられました。❸大学生の会員との連携・通信の作成❺ちんじゅの森は世代・地域を超えたつながりのできる場所です。皆さんのご参加をお待ちしています！



・弘世京子・

❶しめ縄づくりに参加し、暮らしの中で大事にしたいと思っていたことを考えたり触れたり取り組むきっかけをいただきました。❸森村さんと子育て経験を振り返って共感し合い、親子が集える場をつくりたいという目標に至り、運営チームを立ち上げ"目白台親子サロンほぐほぐ"を開設して、今は毎週木曜日に親子さんたちをお迎えしています。❺陽だまりのような、軒下のような場所で皆さまをお待ちしています。



・前島千穂子・

❶代表の森村さんと池袋の読書会で偶然出会い、意気投合したのがきっかけです。❷「源氏物語完読マラソン」。林先生や参加者の皆さんと素晴らしい学びの時間になりました。❸園芸班リーダーとして、ほぐほぐのお庭を花いっぱいにすべく奮闘中です。❹牛乳パックコンポストで堆肥を作り、季節の花や野菜を育てる企画（フラワーループプロジェクト）を準備中。幅広い世代がつながる場にしたいです。❺花も人の輪も、楽しく育てていきたいです。



・清水亮佑・

❶自宅近くで畑作業ができる場所を探し、偶然このNPOを知りました。「土と共にある暮らし」に共感し、活動を続けています。❷西条柿の干し柿作りです。初めてでしたが、今では自宅でも作っています。❸畑の作付け・管理やイベントのサポートを担当しています。❹作物を使った伝統食イベントを開催し、日本文化と食育を伝えたいです。増産にも挑戦します！❺皆さんと楽しく活動を盛り上げたいです。よろしくお願いします！

Schedule

ちんじゅの森サロンほぐほぐ

令和8年度後半の活動予定

10月	24日(土)	干し柿作り 協力：日本女子大学食育ボランティアグループ(公衆栄養学研究室)・やずぴょんち
11月	22日(日)	収穫のお祝い　新米ごはんときのこ汁
	29日(土)	和のこころを学ぶ講座 「きげんよく幸せに年齢を重ねる知恵」 主催：和楽舎
12月	19日(土)	しめ縄作り　共催：(社) 地湧の杜
1月	31日(日)	味噌作り
2月	21日(日)	餅つき交流会
3月	13日(土)	昆布の会 共催：日本女子大学食育ボランティアグループ (公衆栄養学研究室)
その他	基本的に第2土曜日	午前中　はたけ班活動/午後　園芸班活動
	毎週木曜日	親子サロンほぐほぐ 主催：目白台親子サロン運営グループ

活動予定は変更することがあります。



東京のお伊勢さまで学ぶご遷宮フォーラム

Vol.4 「お木曳行事の現在地 -変わる社会、続く行事-」

スピーカー：濱千代 早由美 氏　　ナビゲーター：櫻井 治男 氏

東京のお伊勢さまで学ぶ、「ご遷宮フォーラム」。令和７年から令和15年まで年に1～2回、ご遷宮にかかわる方々をゲストにお招きし、壮大な祭りの背景にある伊勢の自然、神宮の歴史、伊勢の町などにふれながら、さまざまな切り口でご遷宮をお伝えしていきます。

今回のフォーラムでは、伊勢ご出身で、伊勢信仰の総合的研究に携わっておられる濱千代早由美先生をお迎えします。お木曳行事の歩みをたどりながら、伊勢という町とそこに暮らす人々の姿に焦点を当て、「変わる社会、続く行事」の現在地についてお話しいただきます。

■日時■
2026年11月27日(金)
19:00-20:30

■会場■
東京大神宮 大神宮会館
（東京都千代田区富士見２-４-１）

■参加費■
一般 2,000円 学生 無料
オンライン配信（後日配信）2,000円

詳細・お申込みは
コチラ▶

特定非営利法人ちんじゅの森 令和８年度通常総会　報告

以下の通り特定非営利法人ちんじゅの森令和８年度通常総会を実施し、審議事項について意義なく承認されましたので、ご報告します。

１．日時　令和８年６月１４日(日)　１３時開会　１４時閉会
２．場所　ちんじゅの森サロン「ほぐほぐ」（東京都文京区目白台1-22-2）
３．社員数　７４名
４．出席した社員数　５４名(内、書面又は電磁的方法による表決者：１６名、表決委任者２８名)
５．審議事項
（１）第一号議案　令和７年度事業報告・決算報告
（２）第二号議案　令和８年度事業計画（案）・予算（案）
（３）第三号議案　任期満了にともなう役員改選

ホームページ「ちんじゅの森とは」中、「概要」欄にて、理事、事業報告書、貸借対照表を掲載しております。（ちんじゅの森とは：https://www.chinju-no-mori.or.jp/about）

NPO法人ちんじゅの森　正会員・賛助会員 募集！

NPO法人ちんじゅの森の活動は会員の皆さまからの会費と寄付で運営しております。活動の趣旨に賛同してくださる方はぜひ会員になって、活動へのサポートをお願いいたします。会費は年間1口2,000円です。ご寄付に規定はございません。

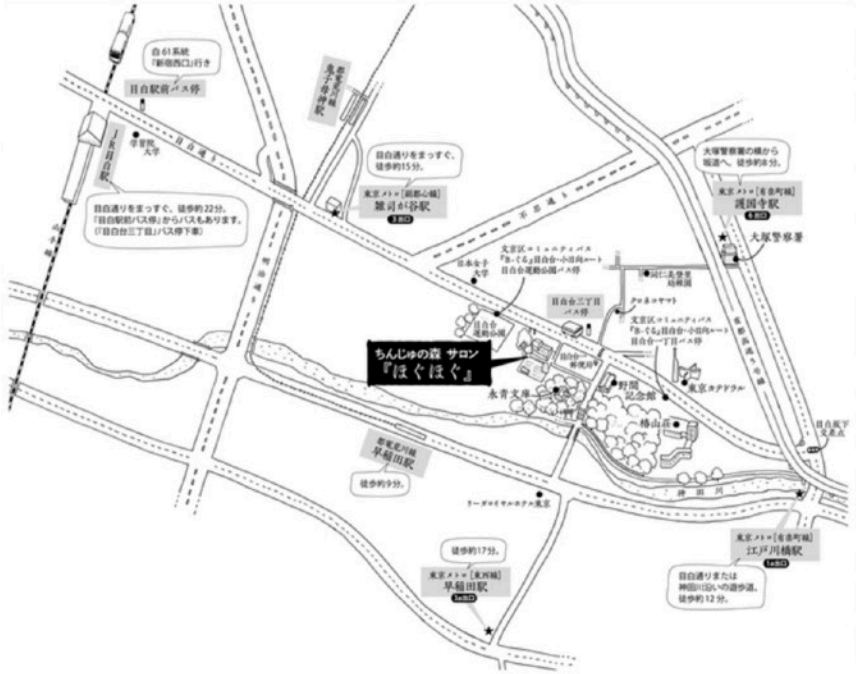
はじめて会費や寄付にご協力くださる皆様へ

ちんじゅの森HP「ご支援のお願い」より、「会員申込フォーム」にてお手続くださいますようお願いいたします。
右記QRコードからページにアクセスいただけます。

https://www.chinju-no-mori.or.jp/shien

NPO法人ちんじゅの森

03-6877-0425　hoguhogu@chinju-no-mori.or.jp
〒112-0015　東京都文京区目白台1-22-2（ちんじゅの森サロンほぐほぐ）



ちんじゅの森サロンほぐほぐは、東京大神宮菜園のある場所をお借りしている、NPO法人ちんじゅの森の活動拠点です。年中行事や季節の手仕事、トークイベントなどを通して、日本の暮らしの中で大切にされてきたものを確認し、それらを未来につなぐ活動拠点として運営しています。　ほぐほぐ

HP

Instagram